

用語解説

掲載頁	用語	説明
2	※1 水道事業	一般の需要に応じて、計画給水人口が100人を超える水道により水を供給する事業をいう。
	※2 簡易水道事業	計画給水人口が5,000人以下である水道によって水を供給する水道事業をいう。
	※3 浄水場	河川水等をきれいにする浄水処理に必要な設備がある施設をいう。
	※4 配水池	給水区域の需要量に応じて適切な配水を行うために、浄水を一時貯える池。
	※5 給水収益	水道事業会計における営業収益の一つで、公の施設としての水道施設の使用について徴収する使用料をいう。通常、水道料金として収入となる収益がこれに当たる。
	※6 新水道ビジョン	2013年3月に厚生労働省が策定・公表したビジョンで、50年、100年後の将来を見据えた水道の理想像を「持続、安全、強靱」とし、その具現化に向けて取り組むべき事項、方策等が示されている。
	※7 水道事業ビジョン	住民に対して事業の安定性や持続性を示すとともに、最低限必要と考えられる経営上の事業計画について、水道事業のマスタープランとして、策定、公表していくことが重要であり、この計画を「水道事業ビジョン」という。
3	※8 第5次八百津町総合計画	2017年度より8年間を計画期間とし、現在の町民ニーズに対応するよう八百津町で策定された総合計画で、町にとっての最上位計画となるものである。
	※9 八百津町地域防災計画	八百津町で起こりうる災害に備えるため、災害予防、災害警戒、応急対応、災害復旧、復興に関する事項を取りまとめたもので、国による防災基本計画、岐阜県地域防災計画の改訂に伴い、2013年10月に全面改訂が行われた。

用語解説

掲載頁	用語	説明
3	※10 アセットマネジメント	持続可能な水道事業を実現するために中長期的な視点に立ち、現状の施設や管路の健全性等を評価し、将来にわたり、財源を確保しながら適切に維持・更新するための管理手法をいう。
	※11 経営戦略	経営環境の変化に適切に対応し、将来にわたって安定的に事業を継続できるよう中長期的な視点から経営の健全化と経営基盤の強化を図るための取り組みをいう。
6	※12 計画一日最大給水量	年間の一日給水量のうち最大のものを一日最大給水量（ $\text{m}^3/\text{日}$ ）という。なお、ここでいう計画とは、将来の施設規模や財政見通しを検討する上で基準とする値を示す。
7	※13 一日平均給水量	年間総給水量を年日数で除したものを一日平均給水量（ $\text{m}^3/\text{日}$ ）という。
8	※14 表流水	河川、湖沼、沼、貯水池等、陸地表面に存在する水。特に水利用の観点から地下水に対していう。
	※15 計画取水量	取水地点から浄水施設までの損失水量（漏水量など）と、計画一日最大給水量を考慮して定める取水量をいう。
12	※16 着水井	浄水場などへ流入する原水の水位動揺を安定させ、水位調節と流入量測定を行うために設ける池あるいはマス（柵）のことをいう。
	※17 混和池	凝集剤を注入した後に直ちに急速な攪拌を与えて凝集剤を原水中に均一に行き渡らせる必要があるが、そのための混和装置のことで、急速攪拌槽、急速攪拌池、急速混和池、あるいは単に混和地ともいう。
	※18 PAC	水中の微細なコロイド粒子の荷電を中和し、双方を橋渡しする作用をもつ薬品である凝集剤の1つ、水道用ポリ塩化アルミニウムのことをいう。

用語解説

掲載頁	用語	説明
12	※19 膜ろ過	原水を膜に通して、溶解性成分などの小さな不純物まで分離除去する浄水方法をいう。
13	※20 沈砂池	取水門、取水塔及び取水管渠などの取水施設により河川表流水を取水して、原水とともに流入した砂などを速やかに沈降除去するための施設をいう。
	※21 沈でん池	水よりも重い粒子は、静水中やきわめて静かな流れの中では沈降して水と分離する。この原理を利用して、原水を静かに流れる広い池に流入させて原水中の粒子（懸濁物）を分離する池を、沈でん池または沈でん槽と呼ぶ。
	※22 緩速ろ過	1日4～5mの遅い速度でろ過し、そのとき砂層表面や砂層内部に増殖した藻類や細菌などの生物によってつくられた粘質の膜（生物ろ過膜）によって水中の不純物を除去する方法。
14	※23 フロック形成池	沈澱処理の前処理として急速攪拌池で水和反応によって生じたマイクロフロックを、穏やかな攪拌によって大型フロックに成長させることを行うための池。
	※24 薬品沈でん池	急速ろ過方式における沈澱処理において、凝集作用で成長したフロックを沈澱分離し、後続の急速ろ過池にかかる負担を軽減する目的で設置されるもので、緩速ろ過方式の普通沈でん池と区別される。
	※25 急速ろ過	原水中の懸濁物質を化学薬品である凝集剤を用いてまず凝集沈澱処理し、残りの濁質を1日120～150mの速い速度の急速ろ過池でろ過し除去する方法をいう。
16	※26 導水管	水道管のうち、取水施設を経た水を浄水場まで導く管路をいう。
	※27 送水管	水道管のうち、浄水場から配水池までに浄水を送る管路をいう。

用語解説

掲載頁	用語	説明
16	※28 配水管	水道管のうち、配水池から使用者へ、水を配るための管路をいう。
	※29 塩化ビニル管	塩化ビニル樹脂を主原料とし、安定剤、顔料を加え、加熱した押し出し成形機によって製造したものをいう。塩化ビニル管または塩ビ管とも呼ばれている。
	※30 ダクタイル鋳鉄管	鋳鉄に含まれる黒鉛を球状化させたもので、鋳鉄に比べ、強度や靱性に豊んでいる。施工性が良好であるため、現在、水道用管として広く用いられているが、重量が比較的重いなどの短所がある。
	※31 ポリエチレン管	プラスチック管の一種で、管は軽量で耐寒性、耐衝撃性にすぐれる。また他の管種に比べ、可撓性に富んでおり、地盤変動に対して影響が少ないなどの特徴を有している。
	※32 鋼管	素材に鋼を用いていることから、強度、靱性に富み、延伸性も大きいため、大きな内・外圧に耐えることができる。また、溶接継手により連結されるため、管路の一体化が可能であり、継手部の抜け出し防止策が不要となるほか、軽量で加工性が良いなどの特徴がある。
20	※33 収益的収支	企業の経常的経営活動に伴って発生する収入とこれに対応する支出をいう。
	※34 減価償却費	固定資産の減価を費用として、その利用各年度に合理的かつ計画的に負担させる会計上の処理または手続きを減価償却といい、この処理または手続きによって、特定の年度の費用とされた固定資産の減価額を減価償却費という。
	※35 資本的収支	収益的収入及び支出に属さない収入・支出のうち現金の収支を伴うもので、主として建設改良及び企業債に関する収入及び支出のことをいう。

用語解説

掲載頁	用語	説明
20	※36 内部留保資金	減価償却費などの現金支出を伴わない支出や収益的収支における利益によって、企業内に留保される自己資金のこと。
25	※37 法定耐用年数	減価償却の計算に用いられる、地方公営企業法で定められた資産の耐用年数のこと。資産の機能的な耐用年数ではない（法定耐用年数を超過すると使えなくなるというわけではない）ことに注意が必要である。
	※38 PC造	プレキャスト鉄筋コンクリート造の略。建物の基本となる部材をあらかじめ工場で製造した後、現場へ持ち込み組立てる工業化工法をいう。
	※39 RC造	現場で鉄筋・型枠を組み、コンクリートを流し込んで躯体を造る工法をいう。
	※40 SUS造	クロム、またはクロムとニッケルを含む、さびにくい合金鋼を用いた工法のことをいう。
	※41 FRP造	Fiber Reinforced Plastics（繊維強化プラスチック）造の略で、軽いが脆いプラスチックに、ガラスなどの繊維を混ぜることによって弾性を増し、軽さはそのまま強度を加えた素材を使った工法をいう。
	※42 減圧槽	標高の高い位置にある配水池から低い地域に給水する場合、水圧が非常に高くなってしまい不都合が生じるため、その水圧調整を行う施設をいう。
	※43 エフロレッセンス	コンクリート等の内部の水に溶け出した原因物質が、水とともに表面に移動し、大気中の二酸化炭素と化合して表面に白い粉として現れる現象のことをいう。
28	※44 公共下水道	主として市街地における下水を排除し、または処理するために地方公共団体が管理する下水道をいう。

用語解説

掲載頁	用語	説明
28	※45 農業集落排水事業	農業集落における、し尿や生活排水など汚水を収集・処理する污水处理施設、雨水を処理する雨水排水施設、発生汚泥を処理するコンポスト施設などを整備する事業をいう。
	※46 PDCAサイクル	計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Act)のプロセスを順に実施し、最後の改善を次の計画に結びつけ、らせん状に品質の維持・向上や継続的な業務改善活動などを推進するマネジメント手法をいう。
31	※47 平均残留塩素濃度	水道水に注入した塩素でのうち殺菌や分解してもなお水中に残留しているものを残留塩素といい、普段私たちが口にする、水道水の塩素とは残留塩素を指す。この残留塩素濃度合計を残留塩素測定回数で除したものを平均残留塩素度という。
	※48 水道法	1890年に制定された水道条例に代わる水道法制。水道により清浄で豊富、低廉な水の供給を図ることによって、公衆衛生の向上と生活環境の改善とに寄与することを目的としている。
33	※49 水道施設耐震工法指針	2009年に日本水道協会から発刊されたガイドラインで、この指針・解説では今までの静的解析を中心としたものから、動的解析による耐震設計を基本とするなどの改訂がなされている。
34	※50 地盤条件	耐震の観点から見ると、液状化しない・埋立地や盛土でない・地すべりしない等の地盤がよい地盤とされる。地盤条件（良い地盤・悪い地盤）は、独立行政法人防災科学技術研究所がWeb上で運営する地震ハザードステーション(J-SHIS)で公開している250mメッシュごとの微地形分類から判断する。 また、八百津町における耐震適合管とは、良い地盤に布設されたK形継手のダクタイル鋳鉄管及びRRロング継手の塩化ビニル管をいう。

用語解説

掲載頁	用語	説明
34	※51 継手	管と管の接合、管とバルブ類の接合など、管路に欠くことのできない材料。種類が豊富で、種々の構造、性能をもったものがある。使用場所、使用目的に応じて使い分ける必要がある。
35	※52 水道施設設計指針	水道事業、水道用水供給事業及び専用水道における水道施設（取水施設、貯水施設、導水施設、浄水施設、送水施設、配水施設及び給水装置）の計画、設計に関する技術的基準を示したものをいう。
	※53 有効容量	配水池などの総容量のうち実際に利用可能な容量をいう。
	※54 時間変動調整容量	一日の水需要は、深夜は少なく朝夕にピークが現れるパターンで変動する。浄水場は、ほぼ一定量で処理するのが効率的で、この配水量の調節を行うために必要な容量のことをいう。
37	※55 応急給水	地震、濁水及び配水施設の事故などにより、水道による給水ができなくなった場合に、被害状況に応じて拠点給水、運搬給水及び仮設給水などにより、飲料水を給水することをいう。
40	※56 国立社会保障・人口問題研究所	人口・世帯数の将来推計や社会保障費に関する統計の作成・調査研究などを行う、厚生労働省の政策研究機関。昭和14年（1939）に厚生省人口問題研究所として設立された。
56	※57 ダクタイル鋳鉄管（GX形）	ダクタイル鋳鉄管(GX形)は、離脱防止機構を有しており、地震時や軟弱地盤における大きな地盤変状に順応できる継手といえる。さらに、GX形は、一般的な埋設環境において、長期の寿命が期待できるように防食設計されていることから、長寿命管としても優れたものであるといえる。

用語解説

掲載頁	用語	説明
56	※58 配水用ポリエチレン管 (融着継手)	<p>管と継手が一体化される配水用ポリエチレン管（融着継手）は、伸びが大きい材料特性と相まって地盤変位に対してよく追従することから、地震時や軟弱地盤における大きな地盤変状に順応できる継手といえる。さらに、配水用ポリエチレンパイプシステム協会が管路の寿命に影響を及ぼす要因について、検証をおこなった結果、100年以上の寿命を有していることを確認しており、長寿命管としても優れたものであるといえる。</p>
	※59 耐衝撃性塩化ビニル管 (RRロング継手)	<p>耐衝撃性塩化ビニル管(RRロング継手)は挿口管を受口中央部にとどめることで、地割れや地盤沈下などによる管の引抜きや押込みに対し、各々に対する余裕代として、受口内部で±75mmの伸縮が可能であり、耐震性能は優れているといえる。ただし、本管種については、使用実績が少なく被災経験も少ないことから、十分な耐震性能は検証されていない。</p>